

2024年度
後期号



- ◆ 世界地図歩き
プレーリーを訪ねて 帝国書院・2
- ◆ 教科書での指導と評価の実践例
「主体的に学習に取り組む態度」の
評価のあり方ー歴史的分野を例にー 久保田 重幸・3
- ◆ 社会科学習 トラの巻④
ワークシートの作り方・使い方
ーその2ー問いの作り方を含めてー 赤坂 寅夫・6
- ◆ ICTで学びが変わる！
デジタル教材「タイムトラベル名探偵！」
を活用した実践提案ーより生徒が主語になる
授業を目指してー 石井 稷・9
- ◆ 公民教室 専門家に聞いてみた
今、知りたい！ 財政を学ぶ
ー地域公共交通(バス)の赤字路線について考えるー 佐藤 主光・12

- ◆ やってみよう！社会科でAL
「持続可能な観光について考えよう」
の授業づくりー令和7年度版教科書を用いた豊かな
学びの創造ー 柳澤 彰紀・14
- ◆ 授業研究 地理
「主体的に学習に取り組む態度」を
育成する単元づくり
ー「日本の諸地域 北海道地方」を事例にー 田代 憲一・16
- ◆ 授業研究 歴史
世界地図を活用し、大航海時代と日本の
つながりを認識するーヨーロッパ人は近世の日本に
どのような影響を与えたのかー 仙田 健一・20
- ◆ 授業研究 公民
私たちの生活と経済 消費者と経済
ー一人暮らしにかかるお金を考えようー 寺地 創太郎・24
- ◆ 史料にみる歴史
描かれた農村風景 福士 雄也・28
- ◆ 社会科ニュース ー30



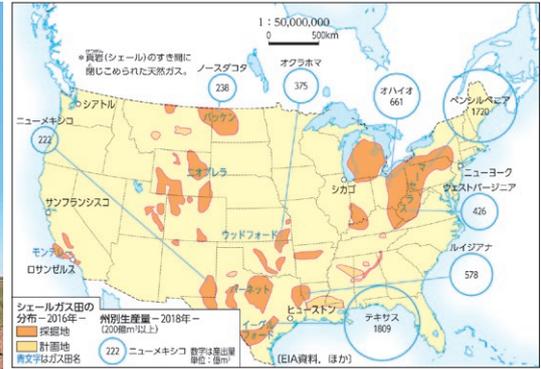


プレーリーを訪ねて

2023年8月、アメリカ合衆国を訪ねた。
『中学校社会科地図』とともに当時の風景を振り返る。



↑トレーラーハウスの内部
↓『中学校社会科地図』 p.63①



↑『中学校社会科地図』 p.64⑦

■コンバインクルーの暮らし

世界でも有数の国土面積をもち、国内に多様な自然環境を有するアメリカ合衆国は、その自然環境を生かして多量の農産物を生産する世界的な農業国である。特に小麦やとうもろこしといった穀物は、世界の食品品の価格に影響を及ぼすほどである(『中学校社会科地図』(以下、地図帳) p.63①)。今回はその小麦の生産地を訪れ、アメリカ合衆国の企業的農業の特徴ともいえる、コンバインクルーの暮らしぶりを取材した。

今回取材を行った地域は、アメリカ合衆国北部のノースダコタ州の中でもさらに北部、カナダとの国境から1時間程度に位置する小麦畑だった(表紙写真)。取材したコンバインクルーの会社は家族経営で行われ、畑を所有する農場主からの依頼を受けて、収穫を専門に行っていた。総勢11名のスタッフで構成された会社は、小麦や大豆などの収穫時期に合わせて、南から北へと約半年間をかけて移動していた(写真①)。その間スタッフは大型トレーラーを改造したハウスで寝泊まりし(写真②③)、朝早くから、時には深夜近くまで収穫を行っていた。はたから見ると大変な仕事と思えたが、スタッフの方々は世

界の人々の食を支えていることを認識し、自分の仕事にとっても誇りをもっていたことが印象的だった。

■小麦畑の中の油田

大規模農業の取材中、畑の中の至る所に原油をくみ上げるポンプや白い貯蔵タンクが点在していることに気がついた(写真④)。広大な畑の中で作業するコンバインよりも、はるかに多くのポンプがひっきりなしに原油をくみ上げている。そこでこの地域が世界のエネルギー供給に大きな影響を及ぼした、シェール革命の中心地の一つであることを思い出した(地図帳 p.64⑦)。アメリカ合衆国の原油・天然ガスの生産量が飛躍的に伸び、今や世界最大の生産国となった要因の一つに、この地域で産出されるシェールオイル・シェールガスがある。そのためもっと大規模な工業地帯が広がっているかと思いきや、牧歌的な風景の中で原油の採掘が行われていることに驚いた。そして、この地域で農業に携わる人々がこれらの産物を害と見なすのではなく大地の恵みととらえ、街の入り口の看板にも描いていた(写真⑤)ことは、さまざまな視点から物事を見ることの大切さを感じさせてくれた。